

(科目コード : 8901520104CC)

【改訂】第19版(2015-03-25)

【科目】都市計画

【科目分類】 専門科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 通年・2単位

【対象学科・専攻】 環境都市 4年

【担当教員】 前期：鈴木 一史
後期：鈴木 一史

【授業目標】

都市計画の歴史と都市計画法について理解できる。
交通需要予測と交通マスタープランについて理解できる。
都市施設と都市の面整備について理解できる。
環境負荷の低減、都市のバリアフリー化、開発許可制度について理解できる。

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は45.0時間である。
都市機能の充実や更新は、社会基盤整備の重要な課題のひとつである。この課題を解決するためには、都市の歴史や構成をはじめ法的側面、近年の社会経済状況などに関する幅広い知識が必要である。
本講義では、都市計画の考え方、近年の課題を踏まえた問題・課題、都市計画策定のための手法の基礎について幅広く修得する。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：都市計画[第3版]：樽木武：森北出版：978-4-627-49443-5
教材：プリント

【成績評価方法】

[前期]中間試験：50%、期末試験：50%
[後期]中間試験：30%、期末試験：30%、レポート：40%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	都市計画の基礎的な考え方・用語、都市計画のプロセスを理解できる。	25 %	前期中間試験で評価する。
2	交通の現状、交通需要予測手法、マスタープランの作成方法を理解できる。	25 %	前期期末試験で評価する。
3	都市施設計画、面整備手法を理解できる。	15 %	後期中間試験で評価する。
4	都市の環境問題、近年の社会状況に応じた計画の考え方を理解できる。	15 %	後期期末試験で評価する。
5	問題把握、計画案の設定・評価などの計画プロセスに沿った分析ができる。	20 %	後期レポートで評価する。

【本校の学習・教育目標】

- (C) 技術的問題解決のための専門分野の基本的知識を身に付ける
各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる

【授業計画】（都市計画）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1	【1～7回：概説・土地利用】 ガイダンス	ガイダンス、都市計画とは		
2	都市計画の歴史	都市建設・整備の歴史、群馬県・前橋市の例		
3	計画の段階構成、都市計画法(1)	全国計画・上位計画、都市計画の理念・区域・内容		
4	都市計画法(2)	整開保、区域区分、地域地区		
5	都市計画法(3)	用途地域、その他地域地区		
6	都市計画のプロセス	計画策定プロセス、計画関連主体、市民との関わり		
7	前期（前半）のまとめ	1～7回のまとめ		
8	【前期・中間試験】	範囲：1～7回		
9	【9～15回：都市と交通】 都市計画のフレームと手順			
10	交通の現状	交通計画のプロセス、交通の現状と交通計画、交通特性分析		
11	交通需要予測(1)	予測プロセス、生成交通量・発生集中交通量		
12	交通需要予測(2)	分布交通量、分担交通量、配分交通量		
13	交通マスタープラン(1)	交通マスタープラン、道路ネットワーク		
14	交通マスタープラン(2)	公共交通ネットワーク、公共交通施設計画		
15	前期（後半）のまとめ	9～15回のまとめ		
16	【16～22回：都市施設・面整備】 個別の交通施設計画	道路構造、駅前広場、中心市街地の施設		
17	交通需要管理計画（TDM）	TDMの考え方、分類・事例、社会実験		
18	緑地・公園、供給および処理施設	都市施設、緑地・公園、配置パターン・整備目標、供給および処理施設		
19	市街地開発事業	土地区画整理事業、市街地再開発事業等	課題（出題）	
20	地区計画等	地区計画等、地区計画の策定、様々な地区計画		
21	レポート指導			
22	後期（前半）のまとめ	16～22回のまとめ		
23	【後期・中間試験】	範囲：16～22回		
24	【25～30回：都市の環境】 レポート指導			
25	中心市街地活性化事業	市街地衰退のメカニズム、まちづくり三法による中心市街地活性化、コンパクトシティ	課題（締切）	
26	都市の環境(1)	環境負荷の現状と目標		
27	都市の環境(2)	環境負荷を削減するための都市・交通計画		
28	高齢社会における交通計画・デザイン	高齢者の交通行動、バリアフリー法、施設整備事例		
29	開発手続き	開発許可制度、環境影響評価		
30	参加型まちづくり、後期（後半）のまとめ	市民参加の歴史、市民参加のプロセス、24～30回のまとめ		